

土 器



甕



壺



壺



甕

前期前半の土器

出土した土器は、壺・甕・鉢・蓋・高杯と縄文土器の系譜を引く突帯文土器がある。蓋・高杯は数が少ない。これらの土器には、畿内第2様式の主流となる櫛描文くしがまもんが見られず、口頸部が短く、1～3 状のへら沈線ちんせんを施した第1様式前期前半と、非常に長く発達した壺の頸胴部や甕の頸部に多条のへらで沈線を施した後半の二時期に大きく分けることができる。

突帯文土器には壺・深鉢ふかばち・浅鉢あさばちがあり、前期後半まで見られる。

前期後半の土器

石 器



多頭環状石斧・石ノミ・偏平片刃石斧・挟入柱状片刃石斧・石包丁



石斧